

第 187 号 内容紹介

1, 根本敬「ミャンマーの苦闘をどう捉えるか」

現状を「内戦」と受け止めると現実を見誤る。「クーデターから 4 年、悪化する国民の苦しみと国家創り替えへの格闘」と題した深い現状分析に前向きの光がみえる。第一人者の東京 AALA での講演録。

2, S・ラマポーサ「多国間貿易体制の強化は全世界の責務」

多国間協議ルールを破壊して米国による一国支配体制をねらうトランプ「関税戦争」にどう立ちむかうか。WTO30 周年に当たって「多国間貿易体制の強化を強調した南ア大統領による世界への訴え。

3, J・ロス「トランプ関税をめぐるグローバルなたたかい」

現在の WTO 体制は途上国からみれば決して公正なものとはいえないが、最低限のルールさえ破壊して米国支配をねらうトランプ攻勢へのたたかいは、多国間貿易体制を守るグローバルな対応が必要だ。

4, M・ハドソン「トランプの歪んだ関税史観」

米国産業衰退の原因となった問題に対処するのではなく、裕福な「政治献金者」層をさらにもうけさせるための新自由主義的なプログラムにすぎない、と米国経済の歩みを解説しながら批判。

5, MN・ルグンダ「援助が終わっても帝国は続く」

欧米の対外援助機関の閉鎖やアフリカ援助の削減は、植民地支配にかわって構築された支配、依存、脱政治化に根ざした援助モデルは依然としてアフリカの開発のモデルになっていると分析。

その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます ([aala_news の編集日記 \(livedoon a 愛用紹介 r.jp\)](#))

